立花生徒会新聞　Iretle通信　平成30年11月12日（月）尼崎市立立花中学校生徒会執行部発行 第11号　通刊93号

立花生徒会新聞 Iretleの通信

生徒会選挙

文化発表会という大きな行事も終わり、十二月七日には生徒集会及び生徒会役員選挙が行われます。生徒会役員選挙では、来年度の生徒会役員が選ばれます。役職は、生徒会々長、生徒会副会長、文化厚生委員長、美化委員長、図書委員長、体育委員長、健康管理委員長、放送委員長を各一名ずつ計八名を募ります。任期は一月から十二月までの一年間で、朝の挨拶運動や全校集会、専門委員会の進行などの活動を行っています。また、体育大会や文化発表会などの学校行事、たちばな祭りなどの学校外のイベントにも関わらせていただいています。

生徒会執行部に入ると、とても忙しい日々を過ごすため大変だと思うことがあると思います。しかし、行事などの準備に関わるため行事が成功した時の達成感や充実感はとても大きなものになります。また、進行や準備を進めていくなかで、「周りを見ながら動く力」や「今自分が何をすべきなのか考える力」が自然と身についていきます。活動の中では、目に見える結果は出ないこともありますが、たくさんの経験が自分の成長につながるはずです。

僕自身、生徒会執行部に入ってから親しみやすい先輩方と出会い活動していく中で楽しさや充実感、特に生徒会執行部全員で行事を終わらせることができた時の達成感はとても大きなものでした。それが原動力となり他の仕事も頑張ることができます。

今回立候補を考えている人は、大きな決意をもって選挙に臨もうとしていると思います。強い気持ちを持って諦めずに頑張ってください。

三年生のみなさんはこれまで先輩方の伝統を引き継ぎ、中学校生活を送ってきたと思います。これからの伝統を引き継いでいく来年度の生徒会執行部にもご協力よろしくお願いします。

また、選挙当日に生徒集会も行います。生徒集会では各専門委員会の一年間の活動報告、委員長の退任の挨拶を行います。今年度の生徒会執行部の活動は残り少ない期間となりましたが最後までご協力よろしくお願いします。

期末テスト

今月十九日から二十一日に期末テストが行われます。今回のテストは一・二年生は五教科と実技三教科の音楽、保健体育、技術・家庭科が、三年生は五教科と実技四教科の美術、音楽、保健体育、技術・家庭科があります。二学期最後のテストということで、教科も多いですがやり残しのないようにしっかり対策をしましょう。また、三年生にとっては受験に関わる重要なテストの一つなので、五教科はもちろん、実技四教科にも力を入れて勉強し、悔いが残らないように頑張りましょう。

突然ですが、みなさんはなぜ期末テストを行うのか、そもそも期末テストが何なのか知っていますか。辞書には「学校で、それぞれの教科や科目に、どれだけの学習効果や教育効果があるのかを試す試験である」と書かれています。つまり、各教科での日々の積み重ねが、いかに実践で応用できるのか、またその科目についてどれだけの学習効果、教育効果が出ているのかを明確にするための試験ということです。しかし、一般的に学校では「何月何日何曜日に何々のテストをする」ということを生徒に明確に表し、また「何の教科の何から何まで」という範囲までも明確に提示しています。そうすることにより、生徒はただひたすらテストの日に向けて勉強するであろうことが予測されます。ということは、本来の学習効果、教育効果というものはあくまでも本来の生徒の基礎であり、身についた真の学力ではない、その日に向けて勉強した結果、記憶に残すことができたものということです。つまり、何が言いたいのかというと「毎日少しずつでもいいからコツコツと勉強をしていくことが大切」ということです。今、私達が勉強していることは目の前のテストや成績だけに限らず、高校や大学、社会に出て働き出してからも役に立ちます。実際に中学校で学んだことは全部が役立つかは分かりませんが、学んだことは必ず自分の力になるので、頑張ってみてください。

テストに向けての体調管理も大切です。だんだん寒くなってきたので、風邪をひかないよう、勉強する時は部屋の暖房をつけたり、外に出るときはしっかり厚着をしたりしましょう。

劇を通して

今年の文化発表会では、生徒会執行部と文芸部が合同で「グッド・バイ・マイ…」という劇に挑戦しました。人生には、色々な困難があることを知りながらそれに立ち向かい、未来を切り開いて生きていくことを誓うことがテーマになっていて、「命とは何だ」と真剣に考えさせられる作品です。この劇は、人が誕生する前の世界（命が命になる前の神の世界）での話です。青太、桃子、黄郎、緑の四人は自分の生後の運命を半ば知らされて恐れおののきます。過酷な運命を告げられ、絶望感でいっぱいになる彼らに、老婆は「未来を本当に自分の手で切り開けるか。それとも負けてしまうか。それはあなたがた次第よ。」と言います。そんな人生でも、生まれることを望むのか、と葛藤する四人に白の使者は、白い門を通って人間界に生まれていくよう促します。黒の使者は、黒い門を通って無の世界に消えていくよう促します。老人たちの励ましを受け、四人は未来を切り開く勇気を持って誕生への道を歩んでいきます。みなさんは、黄郎の最後のセリフ「グッド・バイ・マイ…」の後には、どんな言葉が続くと思いますか。私は、黄郎の腕だけではなく、ネガティブな気持ちへの別れも含まれているように思います。不幸は分かっているけれど、それに立ち向かい、未来を切り開いていこうとする勇気を出せたのだと思います。

また、劇中で「この手で未来を切り開く」というセリフがあります。私たちも自分の運命を知って生まれてきたのでしょうか。命の尊さ、そして生きることの意味、こうしたことにきちんと向き合って考えることが必要だというメッセージが込められています。受験で、色々な不安を抱えた三年生には、重なるところが多かったのではないでしょうか。私自身、受験で不安を抱えている今、このメッセージを胸に強い心を持って前に進んでいこうと思いました。みなさんもこれから様々な困難にぶつかったときに、この言葉を思い出してくれたら、嬉しいです。未来をこの手で切り開いていきましょう。

ノーチャイム着席週間

今月の十二日から十六日までノーチャイム着席週間が行われます。ノーチャイム着席週間では、普段のチャイム着席週間とは違い、チャイムが鳴りません。そのため、休み時間中は時間に注意するようにしましょう。時間に間に合うようにクラスで協力し、声かけをしてみてください。

ところでみなさんは、なぜノーチャイム着席週間が行われているのか知っていますか。立花中学校の生活三原則の一つ「時を守り」にあるように、ノーチャイム着席週間は時間を守るために行われています。時間を守ることは、社会に出てからも必要となってきます。だからこそ、今回行われるノーチャイム着席週間を意識し、時間を大切にしましょう。ノーチャイム着席週間ではチャイムが鳴らないため、学校生活よりも意識して時計を見る必要があります。また、みなさんは普段の休み時間に流れている音楽を聞いていますか。この音楽は、チャイムが鳴る一分前に音楽が止まる仕組みになっています。この音楽が鳴り終わったら、すぐに教室に戻るように心がけましょう。また、正副委員は授業開始時間の一分前になると声かけをしてくれます。ノーチャイム着席週間はチャイムが鳴らないため、正副委員だけではなくクラス全員で協力し合い、声かけをしていきましょう。ノーチャイム着席週間で協力し合えるクラスは、これからの行事での成功にもつながってくるとはずです。だからこそ、ノーチャイム着席週間を「だるいな」「しんどいな」といった気持ちで取り組まず、「頑張るぞ」という気持ちで取り組みましょう。

ノーチャイム着席週間だけ時間を意識するのでは意味がありません。普段の学校生活でも、意識することが大切です。音楽や美術などの移動教室がある場合、早く並び始めて出発する、登校するのが遅いから朝はちょっと早く起きて少しでも早く登校するといった、時間に余裕を持った生活をすることが大切です。時間に余裕を持つことで、この前の授業で習ったところの復習をする時間などに使うことができます。なので、時間を意識して行動しましょう。

編集後記

マクドナルドで三角チョコパイの販売が始まりましたね。みなさんは黒と白どちら派ですか。生徒会では黒派五人、白派一人、食べたこと無い派一人、ホットアップルパイ派二人でした。寒くなる日は温かいものを食べ、体を冷やさないよう気をつけましょう。（杉山、藤田、立小川、上杉）

Iretle（テリーフル）の意味「調和」仲が良く全員が輝ける学校

第11号　平成30年11月12日　月曜日　尼崎市立立花中学校　生徒会新聞